

歯学系男性教員の本音を聞く会 報告

歯科医師は、医師に比較すると比較的ワークライフバランスが取りやすい職業と考えられますが、女性歯科医師の場合、職場の状況によっては特に出産後、仕事から離れてしまうことも間々見受けられます。女性が出産後も仕事を続けていくためには、さまざまな条件がそろえることが必要ですが、パートナーの理解と協力が大切な要因のひとつであると考え、【働く女性を妻に持つ男性歯科医師・研究者の本音を聞く会】を、11月25日（水）、12：10～13：30に、歯学部外来事務棟4階演習室で行いました。

話題提供をお引き受けくださったのは、本学医歯学総合研究科歯科医療行動科学分野准教授で歯科臨床研修センターの副センター長でもある新田 浩先生です。新田先生は奥様も歯科医師で、お子さんが2歳になった時に奥様が開業されました。自宅で開業されていること、奥様のご両親が近くに住んでいらっしゃるなどから、働く女性としてはうらやましい環境が揃っていますが、お話の様子からは、母親としてのたいへんさを思いやり、歯科医師としての奥様を尊重する姿勢が伺われました（奥様の職場へは足を踏み入れないとか）。新田先生ご自身は奥様が働くことには特に賛成でも反対でもなかったということですが、家で帰りを待たれているよりは、働いてストレスを解消してくれた方がよいとお考えのようでした。奥様からは「子育ては確かに大変だけど、それを補って余りあるものをもらっている」とのメッセージをいただきました。

新田先生のお話から、森田育男研究担当事務が、女性が出産後も働き続ける際の3つのキーポイントとして、女性側の働く意欲、パートナーの協力、育児（特に病気のとき）を抽出し、コメントしてくださいました。新田先生はかなり家事も分担されるようですが、森田先生からは、男は家事をやっていることを過大評価しやすい点（ご自身のことも含めて？）が、指摘されました。両親が働いて忙しい状況でも、親の意識が子供に向いていれば大丈夫という、子育て中の方へのエールもいただきました。

今の20、30歳代は女性で職業を持つのは当たり前という世代だと思われ、今回の会のタイトル自身が「前時代的」とのご批判もいただきました。参加者との討論の中で、女性の働き続ける意欲や女性が職業を持つことに対する男性側の理解が、個人の育った家庭環境にも影響されていることがわかり、個人の価値観とも深く関わっている問題だと再認識させられました。

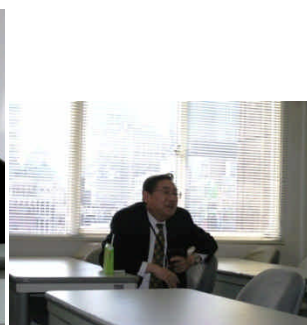
日本では、職場と私生活は分ける傾向が強く、かなり親しい間にならないと、職場で家族の事を話すのは勇気のいることだと思われます。今回、新田先生に口火を切っていただきましたので、今後、男女ともに働きやすい環境をつくるための議論が始まることを願っています。



塩澤育己先生も体験を語って下さいました。



新田 浩先生と参加者



森田育男理事